

Title	中小企業貸出における普通銀行の「取引開始手段」と「貸出シェア説明要素」の分析
Sub Title	
Author	岡屋利則(Okaya, Toshinori) 村井俊雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1979
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001979-0016

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 岡屋利則 主査 村井俊雄 教授
(株式会社 山口銀行) 副査 片岡一郎 教授
所属ゼミナール 鈴木貞彦 研 鈴木貞彦 助教授

中小企業貸出における普通銀行の 「取引開始手段」と「貸出シェア説明要素」の分析

本研究は、普通銀行の中小企業貸出に対する取引開始手段と、中小企業貸出シェアに影響を及ぼす要素について調査、分析したものである。本研究は、従来の研究に比較して、(1) 銀行の中小企業貸出行動が大企業や中小企業とは異なる中小企業独自の性格や特徴を考慮して行なわれているという前提に立っている。(2) これらの分析を実際の貸出行動で立証していることに特徴がある。

本研究の調査、分析により、次のことが判明した。(1) 普通銀行の採用している中小企業に対する取引開始手段は、実際の貸出行動においても、本研究で論じた中小企業の性格や特徴を十分に考慮して選ばれていること。(2) この前提で選ばれた手段は、地方銀行では「紹介」と「店周」であり、都市銀行は「紹介」であること。(3) 都市銀行の採用手段で「店周」は統計的な有意さがみられなかったが、採用数をみれば現実的な意味から棄却できない程度の採用数があったこと。(4) 都市銀行は取引開始手段で、本研究で有効な取引でないとした「その他の手段」を比較的多く採用しており、その中でも「財務・会計サービス」の手段が多いという段象を受けたこと。(5) 中小企業における銀行の貸出シェアは、本研究で仮定した「貸出総合力」と「貸出シェア説明要素」仮説で、統計的にみて完全に有意とはいえないが現実的にみて十分な説明がとれること。(6) このことによって、銀行の貸出競争は、一般に言われているような貸出金利や貸出プロモーション等でなく、非価格競争手段である「銀行と対象企業との力関係」であることである。

これらのことが判明したことにより、本研究の目的であるところの中小企業における銀行貸出行動に対して、マネジリアルな観点からの具体的な戦略提言をなしえることができたと確信している。